

(様式6)

中村美香 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目

Human Factors Affecting the Frequency of Incidents by Years of Nursing Experience: Analysis of Acute Care Hospital Nurses of Regional Cities in Japan

(看護師経験年数別のインシデント頻度に影響する人的要因:日本の地方都市における急性期病院看護師の分析)

The Kitakanto Medical Journal (in press)

Mika Nakamura, Hiroko Kondo

論文の要旨及び判定理由

わが国の医療事故の半数以上に看護師が関与しているとの報告があり、これまでに様々な医療安全対策が実施されているが、看護師によるインシデントは減少していない。看護師のインシデントに関する先行研究では、心理的ストレスや身体的ストレス、安全な業務遂行、仕事負担や多忙などの人的要因の特徴が報告されてきた。しかしながら、看護師としての経験年数を考慮した検討は非常に少なく、本研究は、看護師経験年数別にインシデント頻度に影響する人的要因を明らかにすることを目的とした。

本研究では、日本国内の急性期病院に勤務する看護師1,489名を研究対象とした。独自に作成した「看護師のインシデントに関連しやすい勤務中の状況に関する質問用紙(43項目)」を用いて、無記名自記式質問調査法にて調査を実施し、716人からの有効回答を得た(有効回答率48.1%)。看護師経験年齢別に、インシデント頻度を目的変数として多重ロジスティック回帰分析を行った。その結果、看護師のインシデント頻度に影響する人的要因は、経験年数によって異なることが明らかになった。1年目では多忙な職務環境が、4-10年目では心理的ストレスが、11年目以上では不安全な業務遂行が、インシデント頻度に影響していた。本研究の結果は、看護師の経験年齢別に医療安全対策をたてる必要性を明確に示すものであり、医療の質・安全学に貢献する重要な知見であると認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(令和2年11月12日)

審査委員

主査

群馬大学大学院教授

看護学講座

大山良雄 印

副査

群馬大学大学院教授

看護学講座

内田陽子 印

副査

群馬大学大学院教授

看護学講座

常盤洋子 印

博士後期課程用

参考論文

1. 看護職がインシデント・アクシデントを繰り返す要因に関する研究
The Kitakanto Medical Journal 66(4) : 279-288, 2016
中村美香、近藤浩子、岩永喜久子、今井裕子、杉田歩美、須川美枝子、永井弥生
2. 急性期病院に勤務する看護職のヒューマンエラータイプとインシデント・アクシデントおよび属性の関連に関する研究
群馬保健学研究 37 : 1-10, 2016
中村美香、近藤浩子、岩永喜久子、今井裕子、杉田歩美、須川美枝子、永井弥生